

2023年3月期第3四半期決算説明会 質疑応答要旨

決算説明会音声データ リンク先:

https://www.aisin.com/jp/investors/settlement/uploads/fy2023_q3_presentation.mp3

Q: 急激な車両減産や中国市場の動向などを踏まえ、今後のAT販売・生産をどのように考えているのか。
A: 22年度は高い生産水準に追従できる生産の構えをしてきたが、想定以上の車両減産によりロスが発生した。来年は生産の構えを小さくし、増産効果が出るようにしていく。今後はBEV・HEVに徐々にシフトしていくことは間違いないが、ATの需要が急激に減少するとは考えていない。4Qは中国で得意先の在庫調整による一時的な販売減を見込んでいるが、得意先在庫の解消とともに回復を見込んでいる。

Q: 原材料価格高騰の影響について、仕入先への支払や得意先への価格反映の状況を教えてほしい。
A: 仕入先に対しては、これまで価格改定ルールがなかったエネルギーコスト上昇や仕入先の困りごとについても真摯に寄り添い対応してきた。エネルギーコスト高騰などにより、当初計画から支払は増加しているが、得意先と価格反映について議論を重ね、業績影響を緩和していく。当期の原材料価格の影響550億円のうち半分ぐらいは来期に価格反映できるが、残りは価格反映に向けて引き続き交渉していく。

Q: 電動化への投資と株主還元のバランスをどう考えているか。
A: 重点領域投資や電動化への対応は緩めないが、そのために株主還元を減らすことは考えていない。これらの原資を確保するためにも構造改革はもう一段必要で、会社の再編やポートフォリオの入れ替え、保有株式や土地などの資産にも切り込んで構造改革を加速させていく。期末配当は現時点で未定とさせていただいたが、安定配当を基本に、来期以降の業績も見ながら検討していきたい。

Q: ATについて残存者利益を獲得できるオポチュニティは今後考えられるのか。
A: 今後、電動化への移行が進む一方、地域の事情やエネルギーミックスを踏まえるとATは一定量必要となってくる。各OEMの電動化戦略などによっても中長期でのAT販売台数の見込みには幅が出てくると考えているが、既存の資産をうまく活用しながら、事業資産を電動化商品へシフトしていく。AT・電動化商品のいずれもしっかり利益が出るように商品競争力を高めていく。

Q: 走行安全領域の売上が増えているが、来期以降の見通しを教えてほしい。
A: 電動化に伴い回生協調ブレーキや電動パーキングブレーキが増えていく。ブレーキ事業は強化領域として、アイシングループのリソースをシフトしながら、付加価値ある商品を拡販していく。

以上